

1 ワーキンググループの名称、目的及び検討内容

名称	目的	検討内容
森林生態系 ワーキンググループ	林冠ギャップ地、疎林部といった森林更新の場において、後継樹が健全に生育できる森林更新環境を整えるための各種課題等について検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ニホンジカによる森林生態系被害が顕著な箇所における緊急保全対策 ・人の利用による自然環境の衰退の抑制 ・森林更新の場の保全・創出 等
ニホンジカ保護管理 ワーキンググループ	ニホンジカ個体群を保護管理し、適正な生息密度へ誘導・維持することについて検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ニホンジカの適正生息密度 ・生息密度推定や植生の回復状況を評価するための新たなモニタリング手法 ・ニホンジカによる森林生態系被害の防止 ・生息環境の整備 ・個体数調整手法 ・ニホンジカに関するモニタリング ・捕獲目標頭数 ・広域的な保護管理 等
生物多様性（相互関係） ワーキンググループ	ニホンジカ等による植生の衰退に伴い衰退しつつある動植物の相互関係を調査し、再生する等により、溪流環境、湿地環境等大台ヶ原を特徴づける多様な生態系の保全・再生について検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物種リスト作成 ・動植物の相互関係調査 等
生物多様性（種多様性） ワーキンググループ	大台ヶ原の自然再生の過程において、植生の保全・再生に呼応した動物相や群集の回復と変化を継続的にモニタリングすることで、森林生態系の回復状況を把握することについて検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・動物モニタリング 等
持続可能な利用（ワイズユース） ワーキンググループ	利用の量の適正化による自然環境への負荷の軽減、より質の高い自然体験学習（自然観察会・エコツアー等）の提供等、周辺地域の活性化も念頭に置いた大台ヶ原における持続可能な利用形態をつくりあげることについて検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・適正利用に係る交通量の調整 ・利用環境の適正な保全 ・総合的な利用メニューの充実 等

2 年間のスケジュール（10/21現在）

予定は調整中のものもあるため、変更される可能性があることをご承知おきください。

名称	今年度の検討内容	2014年												2015年											
		8月			9月			10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
森林生態系 ワーキンググループ	地表処理の具体的な取組方法、小規模防鹿柵設置箇所										●						●								
ニホンジカ保護管理 ワーキンググループ	新たなモニタリング手法、新目標密度、来年度の捕獲頭数・捕獲手法、カメラトラップ							●		●						●									
生物多様性（相互関係） ワーキンググループ	調査方法、とりまとめ方法						●									●									
生物多様性（種多様性） ワーキンググループ	来年度以降4年間の動物モニタリング計画、今年度実施するクモ調査															●									
持続可能な利用（ワイズユース） ワーキンググループ	ガイド制度の導入、携帯トイレの設置、標識の多言語化等															●						●			